

第43回市民ふれあいトーク 子育てが楽しいまちづくり

日時 平成25年1月24日 10:30~11:30

場所 倉敷市立短期大学

要約版

市長

おはようございます。今日は「子育てが楽しいまちづくり」ということで、市民ふれあいトーク、はじめて倉敷市立短期大学で開催することになり沢山の皆さんにご参加をいただきましてありがとうございます。今日は隣の子育てカレッジの方に、お子さんを預けて参加していただいている方、地域で子育てに関する活動に取り組んでいただいている方、学生さん達、色々な方が来てくださっていると伺っております。はじめて大学で開催するというので私もどういふふうになるかと思いますが、ここは確か学園祭をする時には、ここからこちらは人形劇をする場所に使われている場所だったように思いますので、人形があったりするわけですけど、1時間ほどよろしく願いしたいと思います。

最初に私の方から、倉敷市の今考えている子育てに関する考え方、大きな流れを5分位お話させていただき、皆様の方からそういうお話に関する意見、自分はこういうところが困っているとか、こういうのがどうですかというお話をいただいて、今後の市政の参考にさせていただければありがたいなと思っております。特に書いたものを持って来たわけではないですが、私、そして市役所の皆が考える「子育てが楽しいまちづくり」、私の公約でも「子育てするなら倉敷で」ということで、この1期目の4年間、そして昨年からの市長の任期2期目になったんですけれど、どういふ考え方で取り組みをしていたかということをお話させていただければと思います。

子育てと一口に言いますが、色々な場面があると思っております。保育園や幼稚園、学校に上がってからのということが、頭に浮かぶと思うんですけど、最初市長に就任をいたしました時に、「子育てするなら倉敷で」と、子育てはいつから始まっているんだろうということを思いました。幼稚園や保育園が足りない、保育園になかなか入れないという課題があるんですが、今少子化になってきて地域の中でも、なかなか、おじいちゃんとおばあちゃんと一緒に暮らしたりする機会も少なくなっているということで、お母さんたちが相談する相手がなくて困っている、孤立化しているお母さんもいらっしゃるという話を伺っていましたので、まず子育てというのは、赤ちゃんがお母さんのおなかにいる頃から始まるものだと思って。その前にお母さんとお父さんとお話をし、子育てが始まるわけですけど、やっぱり最初市としてどこからが取り組みが出来るのかということで、子どもさんが生まれる前から、子育ての支援ができる場所ではないかと考えて政策を進めていくことにしました。最初に取り組みしたのが、今日お子さんが隣の部屋にいらっしゃるお母さん方が対象になってくださったのかもしれませんが、妊婦検診を14回まで倉敷市で、公費で負担をして受けていただくという政策をまず始めたわけです。5回まで公費負担ということになっていたんですが、私が市長に就任しまして、3ヶ月くらいして最初に取り組みしたのが、14回まで市の方で公費負担をしますということでした。14回までなぜ市の方でと思ったかといいますと、1つにはお母さんたちに、より健康に赤ちゃんを産んでいただきたいということが大きな理由ですけど、もう一つ大きな狙いがあり、産婦人科に行っていただくということ、行っていただければ、当然体のことは、安心できるということはあるんですけど、もう1つはお母さんが産婦人科へ行っていただければ、

同じ様な環境のお母さんたちが周りの待合室にいっぱいいらっしゃるし、産婦人科には子育てとか、お母さんが妊娠中の悩みとかそういうことに関する色々な情報が沢山あります。同じ環境のお母さんもいらっしゃるということで、まずその場に行っていただいて、そこから自分と同じ様な環境のお母さんと友達になっていただいたり、ネットワークが繋がって、妊婦さんのサークルに入ったり、同じ環境でお話をしたりしましょうという方向に、繋がってもらえれば良いなという想いがありました。そこに至るまでの考えの中で、1つは倉敷市の消防局が救急車を扱うわけですが、出産直前まで病院に行ったことがなくて、駆け込み出産をするお母さんが、以前は増えていたということや、周りに相談する人がいなくて、妊娠はしたけれどもどうすればいいのかわからなかったんで、そのまま暮らしてこうということになりました、というお話を結構伺ってありました。そういうことがありましたので、赤ちゃんがお母さんのおなかの中にいる時から子育て支援と位置づけて、体の健康のこと、そして周りのお母さんの環境が似かよった環境の所に行っていたきたいということで、妊婦検診の公費負担ということを始めたいわけでありまして。これは倉敷市が全国に先駆けて始めましたので、かなり他の市の方からも視察に来られたり、今はそれが採り上げられて全国の施策になりまして、倉敷市から2年遅れくらいですけど、全国の施策になったということになっております。

さて、赤ちゃんが生まれてからどうなっていくか、ということに着目していくわけですが、「こんにちは赤ちゃん事業」を始めました。赤ちゃんが生まれたら、何ヶ月か以内に保健師、もしくは助産師さん、保健所の方から、赤ちゃんの様子はどうか、お母さんの様子はどうかと全戸に訪問をいたしまして、悩み事を伺ったり、近くにある子育て関係の施設を紹介して、お母さんに行ってみたらどうでしょうかということをご紹介をするということを始めました。赤ちゃんが生まれる前、生まれた直後ということで、少しずつこの環境を整備していき、そこから保育園、幼稚園、保育園・幼稚園にも行かなくてお母さんたちが子どもさんをどういうふうに地域とか、子育てサロンとか、子育て広場に連れて来てくださって、周りの皆さんと触れ合って育てていくかというような施策をしてきました。幼稚園は足りているんだけど、保育園が非常に足りてないというお話でありますので、今、保育園の増設を図ってまして、今年の秋ぐらいに2つ、園を増設する予定になっております。合計で180人くらいの方に入っていただけたらと思いますので、いっぺんに待機児童の解消ということにはならないかもしれないんですが、段々増設をする方向でやっております。保育園に預けていただいたり、一時保育とか、必要なときの保育を使っていただきやすいような体制を整えていくように頑張っております。幼稚園にも保育園にも行かれないご家庭の皆さんもいらっしゃるわけですので、地域で同じ様な環境の皆さんと触れ合っていただけるような、子育てサロンや子育て広場、それから児童館、くらしこもそうですけれど、そういう所にお母さんたちが来ていただけるような施策を、仕組みを頑張っている所でありまして。その後子どもさんが就学、小学校に上がられまして、どうしているかといいますと、小学校に上がりまして一番多いご要望は、放課後児童クラブの充実をしてもらいたいということが、非常に大きな要望としてありました。児童クラブがなかなか入れないとか、それから3年までしか受け入れになっていないとか、6年まで受け入れてもらいたいというお話が多くありました。そもそも児童クラブがない所もありましたので、今なるべく1学校には1つの児童クラブを作っていただけたらという相談をしております、今ほとんど、あと2つ3つぐらいが地域の事情でご相談をしております。

ますが、今60ぐらいの児童クラブができてきております。児童クラブに入っただきやすい、かつ6年まで受け入れていただけるような仕組みをとっているということがあります。学校の方では、学力の低下のことが一番新聞や何かで言われておりまして、学校の先生方とよく相談をして、以前は岡山県は教育県だと言われていたのですが、なぜか今、全国の中でも低い成績になっております。1つには、あまりアグレッシヴにどんどん成績、成績というふうな感じではなくて、ゆとり教育というのを進めてきたというところもあるんですが、学力はいいに越したことはないんで、ここはしっかり学校の先生と一緒にがんばっていきたいと思っております。もう一つ、障がいがあるお子さん方に対する施策ですけど、小学校では特別支援学級、この平成26年からは倉敷市で倉敷支援学校が市役所の近くの方に大きいのが1校だけあったんですけど、岡山県の方をお願いをしまして平成26年の4月から、非常に大きいものを真備の方に造っていただけることにやっとなりました。今よりも支援が必要なお子さんたちへの支援を前に進めていけるようになるかと思っております。それから学校の中で日々の教室の中でも、特に小学校の低学年、1年生については大人数のクラスでは担任の先生プラス、もう1人支援員の先生を配置をいたしまして、とにかく1年の導入の時に学校に慣れてもらいやすいようにということに気を配って、先生の配置をしているところであります。勿論、学力向上に繋がってほしいんですけども、そういうような取り組みをしているところであります。

高校につきましては、多くは県立高校なわけですけども、市の市立高校もあるわけございまして、高校において社会に出る準備のところについて、支援を頑張っておられて、その高校から就職もしくは高校から大学へ行かれて、あと一番最後に私が思いますのは、倉敷で子どもさんが育って大きくなってきて、大学で、もしかしたら外へ行かれるかもしれませんが、こちらに戻ってきて、倉敷で家を構えたり、結婚して子どもを産みたいと思ってもらえるようなまちづくりをしていくことが、大きくなったお子さん達が素敵な生活を倉敷市内でしてもらえるようになることではないかなと、そんな感じで全般的には思って、市の施策を取り組んでおります。このなかで、それぞれのことで皆さんお困りのことがきっとあると思います。自分はこういう取り組みをしているというお話を聞かせて頂いて、今後の参考にさせていただければと思っておりますので、よろしくお願い致します。今日は結構時間が無いと思いますので、私が1人ずつお答えをする形をこれまでとはってきたんですが、今日はある程度、ご質問やご意見をいただいてから、それについてまとめて、自分がこう思うとかいうお話が出来ればありがたいなと思いますので、よろしくお願い致します。では今のどの部分の所でも結構ですので、自分が困っているとか、こういうところをもっと改善したらいいとか、教えていただければ。

参加者 Aさん

今日のテーマにぴったりの会の紹介とお願い、提案に参りました。水島児童館に「水島児童館ひだまりの会」があります。10年前の館長が育成者の孤立、虐待防止の為の寺子屋のような場所を作ろうということで、2004年の4月から始まっています。会員は公募制で、活動は午前中、月2回です。活動内容は集まった知らない者同士の、子育てをしている親たちが班を作って当番をして、活動内容を企画して実施するという会です。子育てで親が子どもを連れて遊びに行く場所は随分増えたと思いますが、親同士が一言も言葉を交わさずに帰ることは珍しくありません。そうした中、ひだまりの会は会員全員が運営

するので、連絡や相談をする為に、会員同士が関わりを持たざるを得ないので、そうして言葉や声を掛けていくうちに1年間で皆と知り合いになって、その場所が心のよりどころになったりしています。児童館で子どもを遊ばせに連れて行っている間に、親は待っているわけですが、その間に親同士が楽しく関係を築いて広げていけるという場合は、水島児童館にしかありません。補助金が要らず、窓口が児童館にあるというだけで、どんな育成者も運営ができています。こういう会の活動を市長さんはどう思われますか。

市長

ありがとうございます。大変素晴らしい活動をしていただいておりますし、ありがたいと思っておりますし、今言われましたように親同士の繋がりが、今の社会では薄くなっているのを、皆が待っているだけじゃなく、会話をしたり悩みを話したり、そこから自分の気持ちも良くなり、困ったらここに相談すればいいというふうになっていくと思いますので、ありがたい活動をしていただいていると思っております。

参加者 A さん

ありがとうございます。この会が水島児童館にしかないというところが私の提案で、こういう会がどこの児童館にも広がっていけばなあという願いです。今会員は48名で、児島から玉島まで広く支持されています。こういう子どもを手元で育てている親達にとっての、楽しいまちづくりに直結していると思うので、市を挙げてこの活動を推進していただきたいとお願いに参りました。

市長

ありがとうございました。勿論、他の児童館にも広がっていけばいいなと思いますし、今後私が考えていることは、子育ての色々な活動をされていらっしゃる、いい活動を他の所も参考になるような活動を、ホームページとか広報紙とかでも採り上げたりしまして、他の地域からもこういうのをやったらいいんだと思っていただけるような、地区に住まわれたらその地区のことしかわかりにくいと思いますので、他の地区の事も参考にしてお母さんたちとか、運営をしてくださる方に繋がりができたり、いい活動を採り入れてもらえるように頑張りたいと思います。

参加者 B さん

今日は市民交流センターの子育てサロンPさんの代表、それから市民交流センターが今何をやっているのかということを含めて、宣伝やらそういう立場から参加させていただきました。

まず子育てサロンPさんは、かれこれ6、7年くらいになるんですけど、最近よく言う虐待とか、家庭内の問題を解消するための手段はないかな、という思いから、お母さんたちに出てきてもらい、親同士の交流とか、悩み相談とか、子育ては誰も一緒なんだなという思いを持ってもらう。一時でも子育てから解放されて、お母さん同士のおしゃべりの場を作りたいなということから始めております。ただ残念なことに、こういう場に出てくれるお母さんたちは、実はどこへでも積極的に出て行って母親同士の交流が出来ていると思います。一番大事なのは、こういう場に出てきてもなかなか友達同士でなじめない

とか、あるいは出て来れないお母さんたちが沢山いると思うんで、この辺をどう解決していくかというのが一つ、これからの問題じゃあないかなと思います。

もう一つは、最近地域力が無くなった。特に私たちが子どもだった頃は貧乏人の子沢山で、ワーワー言うほど路地裏に子どもがたむろしておった。そういうような姿を昨今は全く見なくなった。聞くところによると出生率の一番多いのは徳之島だそうです。徳之島は今もそういうような環境にある。お母さんたちが働いておっても、夜遅くなる時には近所のお母ちゃんが、うちで食べて行きねえと、ご飯を食べさせてやるとか、悪いこと、危険なことをしようたら、あんたら、そういうことをしたらいけんよと叱ってやるような環境がある。いわゆる地域で子育てをしているわけです。こういうような地域で子育てが出来ようなまちづくりを目指さないと、結局は個人プレーに終わってしまうというのが一つです。

それから、今度児島に新しく市民病院が建替えられるという話も聞いてますけれど、是非産婦人科を設置していただければと要望しておきたいと思います。

市長

児島の市民交流センターでプーさんをやっていただいているということで、誠にありがとうございます。地域力がなくなってきているということ、その状況を解消・良くしていく為に、子育てサロンを皆さんがやってくださって本当にありがたいと思っております。そうところに出てこない人、出てきてもなじめない方について、どういうふうにしていくかというのは課題だなと私も思いました。行政も、広報で、こういうのに出てきたら、より楽しいんだよとPRすることも非常に重要だと思いますし、出て来てくださったお母さんたちが口コミで広めていただけたら、大変ありがたいなと思います。

参加者Bさん

さっきの産後指導を是非口添えしていただいて。

市長

こんにちは赤ちゃん事業で、全部の家庭に行きますので、わかりました。ありがとうございます。

参加者Cさん

私たちが何う幼稚園は、園児数が少なく担任の先生一人で年長さんも年少さんも見ておられる所です。そういう所に、なぜ校長先生を退職された先生が、園長先生として来られるのかなと思ひまして。保育の経験のある園長先生だったら担任を手助けできると思います。園児数が多く先生が沢山いらっしゃる所であれば、元校長先生は管理者としていいと思ひますが。

私が行っている幼稚園も園長先生はとてもいい先生で、子どもたちと遊んで良くして下さっていますが、幼児教育となると、我が子の時と比べて、随分違っているなど感じております。それは担任の先生がお一人で頑張っているところかなと思ひます。我が子の時には、園長先生、主任の先生、担任の先生がおられ、皆で話し合っ、園児を見て下さっていたのが、最近先生の数が少なくなり、それが出来ていないのかなと思ひます。

幼稚園時代に出来ることをしておかないで先に進むと、次の段階でわからなくなるというか、達成感も味わわずにいつてしまうんじゃないかと思っております。

市長

ありがとうございました。今幼稚園のお話をさせていただきました。幼稚園や保育園のことについて、ご意見とかある方がいらっしゃったらお願いします。

参加者Dさん

味野幼稚園では3歳児保育、3年あるんですが、長女の時に抽選がありまして、20人定員の中の抽選で落ちて、味野に行けなくて に行くことになったんです。少子化といわれているのに抽選なのか、抽選をなくしていただきたいというのが率直な意見です。今年も友達が味野で抽選を受けたんですけど、落ちて違う学区に行くことになってしまったので、理不尽だと。抽選が無ければと思っています。よろしくお願いします。

参加者Eさん

私も同じことを思っていました。3歳児保育をしている幼稚園が児島に3園しかないので、その数を増やしたらと思います。3園あって、味野から稗田に来るにしても、駐車場の場所がなく車が止めにくいで 朝20分かけて子どもを連れて行くのは大変だから、あきらめて保育園に入れようとかそういう話も聞いたことがあるので、もっと増えたらよいのではと思いました。そうしたら、待機児童も減ると思いました。

市長

今、幼稚園のお話だったと思います。保育園のことも大丈夫ですので。幼稚園・保育園のことでありますか。

参加者Fさん

長女が小学校 年生ですが、その子が幼稚園に通っている時には、月に1度英語の先生が来られて、英語の勉強をさせていただいていたのですが、そのお姉ちゃんが卒園した次の年から、英語の勉強がなくなりました。園長先生に確認したところ、小学校までは英語の先生の予算が組まれているのですが、今年度から幼稚園は予算が組まれなくなりましたということをお聞きして、その後全く、予算が組まれていないのかなと思い、そのことが今後、難しいのかどうかお聞きしたいと思いました。

参加者Gさん

歳と 歳の男の子を育てています。市長は幼稚園は足りているので、保育園を充実させたいとのことですが、私も先ほどの方と同じで、幼稚園の3年保育が倉敷だと葦高幼稚園だけで、色々なところから葦高幼稚園に抽選で来られている方がいて、葦高に1年だけ通って、その後2年は地元の近くの方に行くということをしています。子どもにとって同じところに3年行くのが良いと思うので。幼稚園が足りているといっても、建物はあれども2年保育で、3年保育で行きたい人は私立の幼稚園に行くことになってしまうので、それぞれの幼稚園に3年保育をしていただければと思いました。

参加者 H さん

市長が言われた保育園や児童クラブの充実，また倉敷に帰った時に家を作るといことが出来るようなまちづくりを目指されているということで，とてもすばらしいなと思って聞いていたんですが。やはり子どもを育てることにしましては，環境以上に育てる人材が一番大切なのではないかと思います。保育園であれ幼稚園であれ，小学校とかの保育士さんや職員の方々の質を上げていくことも大切だと私は思っています。そういうことは以前もされていたと思いますが，伊東市長が就任されてから，どのようにスタッフの向上を図られているのかをお聞きしたいです。

参加者 I さん

今，二人の子どもを育てているんですけど，上のお姉ちゃんは保育園で預かっていたんですが，来年度からさらに保育園の事情が厳しくなったらしくて，育休を続けるのであれば，やめないといけないと言われていまして，やめて家でみるのは問題ないのですが，いざ復帰した時に一気に二人とか三人と一緒に入れる可能性が低いと思うので，そのあたりを良いようにしていただけたらと思っています。お願いします。

市長

あまりにたくさん言っていたのでお答えできるかどうか，ちょっと心配になりましたが。まず，幼稚園の3歳児保育のことを何人かに言っていたと思います。3歳児保育につきましては，市としても拡大していこうと思っています。拡大のスピードがそんなに速くないということがあるかもしれませんが，今のところは人数よりも希望の方が多くて，抽選となってそこに行けないということですよ。市としても勿論，拡大していく必要があると思っています。ということが1つ。一方で，幼稚園の定員とか何歳の子どもを何人預かっていくというのが，市と私立幼稚園といれました研究会のようなもので，検討しているんです。毎年話しているんですけど，何年かに1回に答申をもらいまして，この地区に希望の人が多く，足りていないこの地区の方を増やしましょうとかという答申をもらって，じゃあこの園にしましょうとか，一番希望が多い，例えば葦高地区を増やしましょうと。それでも足りていないと先ほども言われていましたが。という形で進んでいっております。この方向はこれからも増やしていこうと思っているわけでありまして。

一方で，最後に言われました保育園の方も増やしているのですが，それ以上に希望の方がいらっちゃって，なかなか二人目・三人目と預かってもらえるかどうか心配だという方が，非常に多いという状況にもなっております。勿論，市としましては保育園の入所の定員，それから3歳児保育の定員は増やしていこうと思っているわけです。

一方で，ここ1・2年ニュースでも聞いたことがあるかもしれないですが，「子ども・子育て新システム」，今の正式な名前かというと「子ども・子育て支援新制度」と言いますが，政権によって名前が変わったりするんですが，つまり簡単に言うと 幼稚園と保育園とが，両方ともどちらのことも出来るような方向に段々進めていきたいと思います。5年後とか10年後とかじゃなく，今のところ，ここ1・2年の間にその方向へ，早ければ，来年再来年にはそれがスタートするように，徐々に準備をしましょうというのが国の制度としても進んできています。これからの国での検討の仕方にもよるのですが，全般的にいうとこの話

は、幼稚園は比較的保育園より入りやすいということがありますので、幼稚園の方も保育園のことができるようにしましょう。そうしたら、保育園で待機児童がいる園の方も解消するし、近くの幼稚園で保育の方も預かってもらえるようにできればいいなということがあります。ただ、保育園の方がこれ以上受け入れるのが難しいかもしれませんが、幼稚園のこともできるようにする仕組みを作ろうとしていまして、あと1・2年の間に導入されることになる方向で検討されていますので、まず市としまして、それまでの間をなんとか現状で、保育園とか3歳児保育の定員を少しでも増やして、国の大きな制度の転換に向け、少しでもギャップが埋まるようにしていきたいと思っているのが現状です。

国も幼稚園・保育園で中々入れない状況を非常に重く見ていますので、来年4月からの消費税アップの話8%、再来年10月からの10%の話、この中でのお金を子どもさんの保育園・幼稚園の仕組みを変えたり、整備したりしていくのにかかり使っていくと聞いています。勿論、高齢者の方の制度にも使っていくのですが、大きく高齢者と子どもの方にお金をつぎ込むために消費税をあげるということになっていきますので、国の方も保育園・幼稚園のことについて頑張ってくれるんじゃないかと思っていますし、市としても一緒にやっていきたいと、全般的には思っています。

英語教育のお話がありました。以前、幼稚園で英語の先生、少し(国際理解の)導入部分をやっていたことがありました。その後、国から小学校で英語の義務教育の導入が図られ、教育の中での先生の配置の問題とか、学校と国から小学校の英語の導入に当たって、まず国語をしっかりやってもらいたいと要望がかなりありました。倉敷市の昨年発表された学力テストの結果などでも、国語の成績が非常に悪いところがありまして、親御さんたち先生たちからまず、小さい時に国語をやらないといけないとかかなりご意見をいただいております。そういうことなどもあり今後の方向性としては、幼児教育という面では、特に小学校低学年ぐらいまでは日本の国語をしっかりやって、そして小学校5、6年生が英語を義務教育として、と国からきていますので、それをしていくという方向に段々力をいれていくと思います。特に国語と算数が悪いと聞いております。これが悪かったら、大人になっても困りますので、そのあたりに力をいれていかなければいけないと思っているのが全般的な流れになっております。確かに幼稚園に外国の先生に来ていただいて、非常に楽しんでいただいたと伺っているんですが、教育と成績とか義務教育の関係で、今そういう流れになってきていますので、ご理解をお願いできればと思います。

そして人材の件で、学生さんに言っていたいたわけですけど。一番最初の方が言われた「小学校の先生をやめられた方が幼稚園の園長をされている」というのは調べてみたいと思います。それで人材の面ですが、幼児教育、保育について保育士の先生方、この短期大学との間もそうですが、せつかくこの短期大学があるわけですから、倉敷市の保育士の先生にも講座を受けてもらったり、岡山大学に行って講座を受けてもらえるようなコースを準備したりしています。それから、もう1つ力を入れているのは、特に今、小さい時に対応すれば、大人になるに当たってそんなに支障がでにくくなっていくという発達障がいとかの子どもさんの割合が非常に増えていますので、そういう子どもさん達に対応できるような研修とかに力を入れたりしています。やはり発達障がいのある子どもさんに対する対応もそうですし、それからそういう子どもさんがいらっちゃって、中々ほかの子どもさんが授業に集中できない環境もできますので、両方の方にとって良いように、発達障がいのある子どもさんの対応に力をいれるのが重要だと思っていますので、そういうところに

力をいれております。学校の方でも頑張ってください、学長。今日、市立短期大学の学長先生も一緒に来て聞いていただいていますので、よろしくお願いします。

参加者 Jさん

主任児童委員をしております。児童クラブの運営委員長もさせていただいておりますが、先ほど人材の教育というお話もありましたが、平成 年に立ち上げて 年目になっております。立ち上げのときから言えば、いろんな研修とか、先ほど言われていた発達障がいであるとか、こちらで子育てカレッジをしていただいておりますが、倉敷市内の指導員が多く参加させていただいているという事をお聞きしていますが、そういったことも含めて、本当にそういった部分で有難いと思っております。で、うちの 児童クラブとしましては 専用トイレがなかったんですけども、シャッターを2基設置していただいて、専用トイレもコーナーに出来ました。本当にありがとうございます。

それで今思っているのが、緑ヶ丘小学校は規模が小さいので、1年から6年まで受け入れをしていますが、お隣の児島小学校はどんどん増えて、 クラブが一と二とあるんですけど、それでも低学年しか受け入れが難しいということで。これは学校も関係あると思うんですけど、小学校自体、規模が小さくなって行って、かたや造成ということもあるんですけど、児島小学校は増えて行っております。私が中学校区の主任児童委員という事で、両方を見ていて、かたや空き教室が増えて、かたや教室がパンパンで、一クラス30人以上が4クラスもあるというような現状を見ていますと、教育委員会は独立してるなあと思うんですけど、以前のように、学区制をもう少しきちんとしていただけたらありがたいと思います。本来小川10丁目・中山団地と、稗田町内のお子さんは、緑ヶ丘小学校に通うようになっているんですけど、やはり一クラスということになりますと、段々児島小学校に流れて行ったりしております。柔軟な対応といえばそれまでなのでしょうけど、ある程度学区制もきちんとしていただけたらと思います。それは倉敷市内の他の校区でも見受けられているみたいなので、そうすればどちらの学校、どちらのクラブも現状としては緩和されるかと思っております。以上です。ありがとうございます。

参加者 Kさん

主任児童委員をしておりますここに来られるんだったら、このリボンを付けていただいたらありがたかったかなあと。ご存知ですよ、児童虐待防止の。

2つほど提案させていただきます。一番目は、先ほど子育てはおなかの中から始まっているという話をされていましたが、実際はその前から始まっている。主任児童委員をして17年になるんですけど、子どもを生む親がどういう親かで、子どもの問題が出てくると感じてます。そういう面で教育が大切じゃないかなと。学力アップということは、一番に大切なことかなあと思いますが、大人になるための、そのためのいろんな知識がある程度。先ほどこちらの方が言われてたけど、なかなか、聴いてほしい人には出て来ていただけないと、いろんな問題があったときに。そのためには公教育の間でいろんな、こういうことがありますよというぐらゐのことは、教えていただければありがたいかなあと思っています。子どもが生まれるにしても、生まれる順番というのがあります。先に子どもが生まれたから結婚とか。ここに居られる方もそうかも分からないけど。子どもの問題には原因していると僕らは感じています。

一つは矢野周子議員が一回、議会で質問されたと思うんですけど、子どもが作る弁当の日。いろいろなことを身につける意味でしていただけると、子どもが変わってくるし、大人になってから役に立つと思います。

一つは、この先生がされているんですけど、赤ちゃん登校日というのがあります。体験をさせて身につけてもらう。そういうことを公教育で、中学校を卒業するまでにしていただきたい。

もう一点。先ほど待機児童の問題が出ました。増設されるということで、素晴らしいと思います。出来るかどうかは別として、横浜市は、待機児童がいるけど、地域によっては空いた保育園があるということで、朝、駅で園児を預かって、空いたところに連れて行くと聞いています。幸いに倉敷も児島地区の方は多分空いている園が少しあると思いますので、有効に活用されたらと思います。

参加者 L さん

放課後児童クラブの運営委員長をさせていただいております。前の方が設備面で早急にしていただいたということで、本当にありがとうございます。ですが、倉敷市内はまだまだ設備面での充実面が出来ていないところがたくさんありますので、もう少し手を広げていただければと思います。それと、子育て支援課の方にお世話になっていて、すごく苦労されているということも知っていますが、教育委員会と子育て支援課との間でうまく行っていない面もあったりするので。

市長

具体的にはどういうことでしょうか？

参加者 L さん

いちいちお伺いをたてないといけないとか、児童クラブ関係としましては、一つ言うとスッと通っていく方が、ありがたいなと思っていますので、少し改善していただけたらと思います。最後ですけど、子どもが今年二十歳になり成人式をマスカットでさせていただいてるんですけど、とても寒かったです。できればお部屋の中でしていただけるような方向で、考えていただければありがたいなあとと思います。

参加者 M さん

主任児童委員をしています。私もぜひ公教育で取り組んでほしい内容がありまして、お話いたします。今、子どもが被害にあうという事件が多発している中で、いくら子どもが心配でも、大人が24時間子どもを見守るということは出来ないと思うんですね。ですから子ども自身に力をつけてほしい。子どもが、自分で自分の身を守る、そういう力をつけてほしい、という風に考えています。その時に、「キャップ」と言って、子どもが暴力に会わない方法を伝えるというプログラムを実施しているんですが、「C・A・P」と書いて「キャップ」と言います。ぜひそれを、個人的な集まりじゃなくて、公教育、学校単位で、クラス単位で、実施していただきたいと思っています。なぜならば、やはり虐待にあっているお子さんとか、そういう子どもたち、学校であれば必ずそこで伝えることが出来ると考えますので、そういう取り組みを、是非倉敷市の方でしていただきたいと思っています。

で、高梁市であるとか赤磐市はもう既に、市が予算を取って、手を上げた学校には市の予算から実施するということをしておりますし、備前県民局で私たちも助成金をいただいて、提供もされていますので、倉敷市はそのところで、伝わっていないという想いがあります。ぜひ今、市長にお話して考えていただければと思います。資料を持っていますので、目を通してください。

参加者 N さん

保育ボランティアをしております。3つお願いしたいことがあります。一つが学校教育の充実と、一つが、先ほど言った方と重なるところがあるんですけど出産率を上げることと、防災対策です。一つはまず、一番目の待機児童対策ですけど、私、保育ボランティアで一時保育を預かることが多いんですけど、結構一時保育も保育料が高い。そのため、市が3割負担をしていただくことによって、もっと子どもさんを預かりやすくなるのかなあと思います。

それから、幼稚園とか保育園の稼働率を上げることで、私が思いついたアイデアが、例えば保育士さんの2交代制というのを提案したいと思います。9時から16時と、16時から23時。と言うのが、夜に働きに行かれる母子家庭の方もいらっしゃるんですね。その時に預かっていただくと大変ありがたいなと思うんですね。保育に関しては、会社勤めの人だったら8時から17時とあるんですけど、保育に関しては休みがないですね、24時間体制で毎日やってるんで、大変だと思う。それをサポートしていただきたいというのが、一つ。

小中学校の教育ですけど、岡山県は低下しているということですけど、塾がものすごく流行ってるんですね。せっかく優秀な先生がいらっしゃるんで、その先生方も、正規の先生以外に補助としての先生を雇用していただいて、18時から20時までの小学校を夜間に開放して、塾に行かせずに先生に教えてもらう。中学生も18時から21時、塾に行かせずに夜まで勉強してもらうとなると、親御さんも余計な塾費の心配しなくていいし、先生が教えてくださってるんで安心できると思う。一つの政策で二つ以上のメリットがあります。

それから、出産率を上げることですけど、結婚をもっと倉敷市は推進してほしいです。出産費の負担が段々大きくなってるので、低くするような政策を打ち出してほしいです。

3つめの防災対策。何かあったとき、子どもが一番被害や影響を受けます。それで私は提案したいんですけど、何かあったときにね、最低2年間は安心して暮らせるような市の備えをしてほしい。食べるもの、食糧備蓄、家庭で呼びかける以外にも市でもいくらかは備蓄する。それから避難施設、家が倒壊した場合とか、被害とか火事になった場合、数年間は安心して暮らせなくなるんで、その間は学業にも影響が出ます。ということで、安心して暮らせる避難施設或いは市住宅の増強をお願いします。それから、病院制度、地域と病院が連携した防災対策を、市はもっと本腰を入れてやっていただきたいと思います。

市長

ありがとうございました。幅広い観点から皆様のご意見をいただきまして。学生の問題につきまして、いろんな学区の方からもご意見をいただいておりますので。それぞれのご事情もあると思うんですけど、なるべく学区につきましては、きちんと通っていただけ

るようには思っております。皆さんの方から地域で子どもがしっかりと育つように、子ども自身の公教育などをしてもらいたいというお話、道徳教育、そのためにも、「赤ちゃん登校日」とか、「子どもが作るお弁当の日」とか、特に教育委員会と子育て支援課との連携をしっかりと。今日は担当の人も来ていたんで、よく聞いていたと思います。今も頑張っているんですが、学校には学校の言い分もあり、両方ともうまくいくようには思っておりますので。とにかく倉敷市の子どもが元気に育って、親教育が重要というお話もありましたので、親としてもしっかりとやっていけるように、頑張っていきたいと思っております。

最後に言っていました防災のこと、2年間の備蓄は難しいですが、一応防災としては皆さん3日分備蓄をしましょうと。そうしたらそれまでの間に自衛隊もいるし、助けが来ることになっています、国全体として。それぞれの方も備蓄をしていただきつつ、避難所の充実も進めていきたいと思っておりますし、保育園や幼稚園、小学校、小中との連携も必要だと思っており、そういう広い面で市の政策を、皆さんのお声を伺いながら前に進めていきたいと思っております。今日は非常に短い時間ではありましたが、幅広いご意見をいただきました。今後とも市政の取り組みにぜひ関心を持っていただいて、いろんな面で発言をいただいて、ご協力を賜ればと思います。誠にありがとうございました。